％⑳西胆振43.8％㉑宗谷13.1％であった。なお札幌市は64.5％、旭川市は58.4％、函館市は66.3％、小樽市は46.2％と、それぞれ札幌圏・上川中部圏・南渡島圏・後志圏とそれ程違いがない。また上記下線圏域は、表２の人口10万人あたりの訪問患者数が多い医療圏であり、必ずしも同一建物居住者への訪問数とは相関しないものと思われる。

Ⅵ. 注目すべき訪問診療地域について

Ⅱ～Ⅴを分析すると、日高・留萌・後志に加え、北渡島檜山・南空知が注目すべき圏域である。この５医療圏の訪問診療受療動向に着目する。

〇日高医療圏：７町が含まれ、日高町・平取町・浦河町・新ひだか町からの訪問が多い。

〇留萌医療圏：８市町村が含まれ、留萌市・苫前町・羽幌町からの訪問が大半を占める。

〇後志医療圏：20市町村が含まれ、この圏域の訪問診療は（村以外は）ほぼ自給自足で訪問診療が行われている。

〇北渡島檜山医療圏：４町が含まれ、ほぼ自給自足であるが、長万部町は転居者が多い傾向にある。

〇南空知医療圏：９市町が含まれ、岩見沢市・美唄市・夕張市からの訪問が多い。この地域の特徴は、札幌市からの訪問件数が多い事で、これは札幌市に居住を移している（月形町は100％）と考えられる。なお、夕張市は95％が夕張市からの訪問である。

Ⅶ. おわりに

本道の訪問診療の状況を、①在支病・在支診を実施している医療機関とそれ以外の医療機関との関係②訪問診療と訪問看護の関係③医師偏在指標との関係④同一建物居住者と同一建物居住者以外への訪問との関係で比較検討をした。その結果、訪問看護の存在が、在宅医療の推進には必要と思われた。また、在宅医療小委員会でも出されたが、意欲のある医師・医療機関の存在が大きく寄与しているものと思われた。私的な感想であるが、日高・留萌・後志・北渡島檜山・南空知圏域が注目すべき訪問診療地域と考えられる。今後これらの圏域の詳細な分析を行っていきたい。

専門部から

北海道大学病院・旭川医科大学病院「研修登録医」ならびに札幌医科大学医師会「臨床登録医」の取り扱い中止についてのお知らせ

－学術部－

体験学習を中心とした病診連携の推進は、医師の生涯教育の重要な柱であるとの考えより、日本医師会が文部科学省の依頼を受け、研修制度の推進を行ってまいりました。

当会でも会員の生涯教育に資することを目的として、平成元年、北海道大学病院・旭川医科大学病院「研修登録医」制度、札幌医科大学医師会「臨床登録医」制度を設立、各大学との契約に基づき研修希望者（会員・非会員）を取り次ぐなど地域での病診連携を促進してまいりましたが、ここ数年は登録医数が減少するなど時代とともに大きく変遷してまいりました。

このことを踏まえ、当会において取扱いの検討を行い、当初の目的は十分に担ったこととして、本業務を発展的に解消するとの結論に至りました。

本制度については、各道内三大学病院において継続して実施しておりますので、今後、研修を希望する際は、各大学病院に直接お問い合わせください。

問い合わせ先

北海道大学病院総務課（臨床研修センター）	TEL（011）706-7050
札幌医科大学医師会事務局（病院課病院管理係）	TEL（011）611-2111（内31070）
旭川医科大学病院事務部経営企画課病院庶務係	TEL（0166）69-3006
北海道医師会事業第二課（北海道医師会学術部）	TEL（011）231-1725